

出版ダイジェスト

社団法人 出版協会 出版ダイジェスト社
毎月3回 1日・11日・21日発行 購読料1ヵ年=送料共1,575円(税込)
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-28-13ラフィネお茶の水805 電話03-3292-2323 F A X 03-3292-2325
<http://digest-pub.net> 郵便振替 00190-3-95516

農文協 特集



自然を愛でる 粋なスローライフ

四季の野山をめぐり、花・庭木を愛でる
暮らしの余裕。(道灌山。安藤広重「東
都名所」より)

下から積み上げた 民の繁栄

日本橋小田原町魚市場のに
ぎわい。(葛飾北斎画)



「江戸時代 人づくり風土記」サイト <http://www.ruralnet.or.jp/fdk/>

江戸時代は世界の未来

開府四百年— 江戸 を見直すブックガイド

【本号の目次】

- 江戸時代は世界の未来
—江戸時代を見直す4つの全集(2)(3)
- 「地方の時代」の先駆・江戸時代のふるさとから元気をもらおう
—地域づくり、郷土学習に「江戸時代 人づくり風土記」
.....(4)(5)
- 暮らしを多面的に描き、江戸びとと出会う
—走り読み「江戸時代 人づくり風土記」.....(6)(7)
- ふるさとの人と知恵の物語
—「江戸時代 人づくり風土記」各都道府県版の主な項目
.....(8)(9)
- 「江戸時代 人づくり風土記」読者の声.....(10)(11)
- 農書は現代へのメッセージ—「日本農書全集」が伝える江戸
期の生活世界(12)(13)
- 自然—人間—社会が一体となった健康観
安藤昌益と日本漢方の古典(14)(15)

江戸時代は世界の未来

江戸開府四〇〇年によせて

明治以後の江戸時代観

今年は江戸幕府が開かれ、政府に反逆した榎本武揚を、それから四〇〇年目に当たる委員長として開かれていそうで、東京の「江戸東京博物館」や名古屋の「徳川美術館」での「江戸開府四〇〇年記念特別展示」から、江戸の旧跡を巡るウォークラリーに至るまで、様々な行事が各地で行われている。東京都営の新しい地下鉄が「大江戸線」と名づけられても、都民に格別の違和感はない。それだけ、江戸時代の持つ意味が、広い範囲で注目され納得されてきたということだろう。

道ですすむ。もともと明治維新というのは国家の体制を地方分権から中央集権に変える一つの革命だった。成功した革命家が前の時代を否定する命が前の時代を否定するのは当然である。政府は富国強兵を国是とし、アジアへ侵略し米英など連合軍と戦い、そして敗戦を迎えた。戦後は、民主主義が国是となる。しかし、中央集権という国家運営の手法は変わらなかった。地方自治体の首長は住民が選ぶことになつてはいるが、国家による統治は国のすみずみまで浸透している。

江戸時代の新しいイメージ

こうして明治以来の中央集権の国家運営の継続のなかで、江戸時代は「土農工商」の身分社会であり、「封建的」な社会であり、武士は切り捨てられ、人民は生かすために殺さぬように真綿で首を絞められる、そういう暗黒の時代だったというイメージが広く流布されてきた。

しかし、内外で江戸時代の研究がすすむにつれて、そうした見方はしだいに修正され、現在ふつうに通用する江戸時代の評価は、大筋としてつぎのようなものである。

ところで、今から一五年前の一八八九(明治二十二年)、東京上野で江戸時代を回顧する「三〇〇年祭」という祝典が、旧幕臣で新

は
一八九四 明治二十七年 日露戦争
一八九五 " 二十八年 台湾割譲
一九〇四 " 三十七年 日露戦争
一九一〇 " 四十三年 韓国併合
と、もっぱら対外拡張の

江戸時代は島原の乱(一六三七年)という局地的な内戦を除けば国内での武力

行使はなく、また幕府成立直前の秀吉による朝鮮侵略(一五九二、九八年)以後は海外への出兵もなく、二世紀半も平和の時代が続いた。

前半の七〇年ほどは開発の時代で耕地も人口も二倍前後増加した。生活する場所は丘陵から平野へと拡がり、村々に小農家族という形で庶民が誕生した。そして元禄の繁栄時代(一六八八〜一七〇三年)を迎える。

繁栄の時代を到来させた開発の時代を、現代の高度経済成長期になぞ(次頁へ)



米の収穫を祝う村びとたちの満ち足りたようす(『農業図絵』日本農書全集第26巻より)

農文協

江戸時代を読む①「増刊

現代農業より」

すべては江戸時代に花咲いた



暮らしが景色をつくる

ニッポン型景観形成の源流

アメニティ豊かな地域景観づくりの原点は、欧米型の「つくる」景観でなく、江戸期に各地で人々が自然を活用して暮らしを育てた営みの中にある。山・川・田・畑・海・集落、街の美観を生んだ人と自然の関わりを掘起す。

【近刊】8月号(7月上旬刊)

百姓天下の江戸時代(仮)

江戸時代、首都・江戸よりも深く地方都市・農村のすみずみに浸透していた「自然・人間」の民主主義と農・工・商連携分権型社会の豊かさ。

●900円

ご注文は

農文協 〒107-8668 東京都港区赤坂7-6-1

☎03(3585)1141

FAX03(3589)1387

URL: <http://www.ruralnet.or.jp/>

価格は税込

先進地畿内の綿栽培技術を全国に広げた大蔵永常著『綿圖要務』
(日本農書全集第15巻)



らえてみると、元禄以後幕末までの約一五〇年の間は低成長の時代である。しかし、江戸時代の場合、この低成長期がまた、成熟と爛熟の時代でもあった。今という環境保全やリサイクルの知恵が、山野でも都市のすみずみでも発揮される。山林での留山、留木の制(乱伐の防止)、魚付林の確保(沿岸漁業の保護)、都市の尿尿の農地への還元などは、そのほんの一例である。

江戸時代を見直す仕事

一方、諸国の特性を生かした物産(特産物)の振興が行なわれる。地域資源の開発と新しい作目の導入が活発に進められた。朝鮮や中国からの輸入に頼っていた綿布は、綿作の広がりに

よって自給が可能となった。台湾産などに頼っていた砂糖も、サトウキビの栽培が讃岐や阿波をはじめ各地に広がり、十九世紀初頭にはほぼ国内生産を達成している。

近世史家大石慎三郎氏がこう言っている。「江戸時代の社会というのは、日本の歴史の中で唯一の、下から積み上げていく社会なんです。幕府がその上に立つて全体の利害を調整する役割を果たしてき

た。それをつぶして明治政府ができると、今度は下をつぶして上から下を押さえ込んでいくシステムに作り

変えて、今も基本的にはこのやり方が続いています。」『現代農業増刊・ニッポン型環境保全の源流』三ページ

下から積み上げていく社会というのは、とりもなおさず地方分権(地方自治)を意味し、上を下を押さえ込むシステムとは、つまり中央集権である。そしてこの中央集権というシステム(手法)は、もともと地域性をこわす力を持っていた。また経済の高度成長がそれに拍車をかけた。地域性の喪失は生活の様々な面に不安を発生させる。

そうしたなかで農文協は、江戸時代を見直すための本を系統的に出版してきた。

まず「日本農書全集」全七二巻・別巻一がある。これは江戸時代の「農書」と呼ばれる文書三百余点を集成し、原文と現代語訳を上下二段に組み、詳細な注釈と問題を



大衆消費時代を担った民の力—革新的な店頭正札販売で呉服を庶民に広めた三井家

つけたもので、江戸時代農村からのメッセージをいまの言葉でだれでも手軽に読めるように編集されている。朝日新聞社の第三回明日への環境賞を受賞した。

つぎに「江戸時代人づくり風土記」全五〇巻。これは現在の都道府県別の巻構成をとり、各地でみられた自治と助け合い、物産振興の実績、地域に根ざした教育、子育てと家庭運営、隠れた先駆者の業績などを物語風に記述した、いわば江戸人の暮らしのアンソロジーとなっている。

江戸時代の特異な思想家安藤昌益の、現在までに発見された全著作の影印版(復刻版)と、その書き下し文、さらに現代語訳、解説

江戸時代にみる日本型環境保全の源流

農文協編 江戸期の持続的内発的發展は21世紀の社会モデル。その巧みな産業・社会生活システムを読み解く28の論考

執筆 大石慎三郎 石川英輔 渡辺善次郎 小泉武夫 古沢典夫 萱野茂 大熊孝 長崎福三 吉田豊 他

●1700円

江戸時代を読む②—循環型社会の原像

システムとしての森川海

長崎福三著 漁民による植林が話題の江戸期からの魚付林の知恵を現代に活かし、流域住民による新たな資源・環境管理を大胆に提言

●1950円

自然を守るとはどういうことか

守山弘著 一切の人為を排することが保護なのか―農耕の人為が豊かにした里山の生態系から「自然」「保護」の意味を再考

●1580円

新石油文明論

槌田敦著 細切れの俗流環境対策を排し、開放系エントロピー理論で、江戸期の環境回復をモデルに自然を育む石油文明への転換を展望

●2500円

「地方の時代」の先駆・江戸時代の ふるさとから元気をもらう

地域づくりに、郷土学習に「江戸時代 人づくり風土記」

手本のない時代の 指針を江戸に見る

農文協はかねてから江戸時代に注目し、江戸時代に
関係する全集を四冊刊行し
てきました。2、3面参照。
そのうちの「江戸時代
人づくり風土記」は、都道
府県ごとに一巻をあてた全
50巻の作品で、その企画意
図はつぎのようなところに
あります。

高度成長期が終わったわ
が国にとって、もはや世界
をみまわしても手本にすべ
き国はない。手本のない時
代には歴史をふりかえって
指針を見出すほかはない。

高度成長期が終わったわ
が国にとって、もはや世界
をみまわしても手本にすべ
き国はない。手本のない時
代には歴史をふりかえって
指針を見出すほかはない。



千葉の山武杉の美林(杉の生えない山を松と杉の二段
林仕立てで見事な山林に)

に人と人、人と自然とはど
んなつきあい方をしていた
のだろうか。それを知るこ
とで、現代の人材の育成に
役立てたいと思うからであ
る。

江戸時代の人と自然の関
係は林業技術にしても土木
技術にしても、それだけ独
立していたのではありません。
ふるさとという暮らし
の場で、相互に関連しなが
ら成立していました。そう
なつてきた時代を暮らしの全体像
を描くために都道府県別編
集という手法が必要でし
た。

ふるさとの江戸時代を浮き 彫りにする五つのテーマ

そういうふうなので、
この「江戸時代 人づくり
風土記」は各県版共通につ
ぎの五つの章で構成されて
います。

(1) 地域の自然を生かして
生き、ときには政治の圧力
と闘った「暮らしの仕組み
づくり」にかかわるテーマ
を集めた「自治と助け合い」
の章。新田開発や治水・植
林、村の自治の仕組みと一
揆、飢饉や天災の際の助け
合いなどを描きます。

(2) 地域経済の安定・発展
を願い、特産の振興や新ビ
ジネスを展開した先人の努
力を描く「生業の振興と継
承」の章。

(3) 世界的にみてトップレ
ベルだったと評価される教
育を、学校と地域が一体と
して行っていた「教育の
発展」の章。

(4) 学校・地域とともに「生
きる力」を培った家族と家
族のあり方を描いた「子育
てと家族経営」の章。各地
各層の人々が後世に伝える
生き方の指針を、多様な家
族に即した個性的な家訓や
書簡から探ります。

巨大都市江戸が 和食をつくった

なにない大阪の 伝統野菜

なにわ特産物食文化研究会編著
「食い道楽」の町として栄えた大阪は多様な野菜産
地。一時消えた伝統野菜を見直す。

・2750円

江戸時代を読む③—農と食の文化誌

江戸・東京 農業名所めぐり

J A 東京中央企画・発行 首都の食を支
えた農の意外な歴史、産物。そのゆかりの
地80ヶ所を訪ねるガイドブック。

・2550円

江戸・東京 ゆかりの野菜と花

J A 東京中央企画・発行 世界最大の都
市江戸は、農業の育成都市。その人と風
土と誕生した品種を物語で綴る。

・2550円

江戸・東京 暮らしを支えた動物たち

J A 東京中央企画・発行 江戸中期に芽
生え明治から本格化した近代畜産の発信地
は東京。人々の努力を社会史とともに。

・2548円

巨大都市江戸が 和食をつくった

渡辺善次郎著 日本一豊かだった江戸前
海と近郊農業の発展を支えられた江戸・東
京の食事情形成史。

・1370円



自由闊達な寺子屋の子どもたち。左上の子はおし
おきをうけている(鎌形蕙齋『近世職人尽絵詞』)

明治以後の中央集権の国家運営は、教育の面にとりわけびしく現れました。敗戦までは国定教科書、戦後は検定教科書によって、前者では富国強兵が、後者では民主化が貫徹された(このごろは民主化とも限られませんでした。

者」の章。いま待望される地域リーダーの姿がここにあります。開発や産物・慣習や行事、人物や事件が、地域に即して、各県40〜50の物語として語られていますから、歴史を勉強するのではなく、江戸時代の人々や自然に、さまざまな角度から触れ合うことができます。

江戸の文化については、庶民のしたたかさやユーモアを伝える落語や江戸小咄や川柳の本はたくさん出ています。ですが、「江戸時代人づくり風土記」は、そうした風流や滑稽ばなしを集めたものではありません。江戸時代270年のあらかたを平和に自立して暮らした庶民の生き方を、自

郷土の暮らしが 若い世代を惹き付ける

さて、最後にひとこと。

明治以後の中央集権の国家

ないようですが、

ところが、教育の荒廃に

「江戸時代人づくり風土記」全50巻
都道府県別編集 B5判、上製 平均380頁
【各道府県版】岩手・神奈川・長野・京都・福岡 各3500円、他各4500円

「江戸時代人づくり風土記」は学校の教科書に代わって、地域の歴史や文化を学ぶための教材として、全国の学校で活用されています。この全巻は、江戸時代の歴史や文化を、地域ごとに詳しく紹介しています。全巻の「自分の出身地の巻」を持て、その報告を中

【特別編集版】東京編「大江戸万華鏡」CD・大江戸四季の音巡り 付10000円、沖縄編CD・沖縄を聴こう(沖縄民謡) 付7000円、大阪編大阪の歴史 10000円



「江戸時代人づくり風土記」全50巻

農文協

二宮尊徳

守田志郎著、大藤修解説 尊徳を農村における貨幣経済形成の先駆的体現者と批判的に評価した異色の評価。
・1850円

日本の農耕

対話学習
守田志郎著、原田津解説 農民との対話で古代から明治まで農耕の歴史をたどり、農家の自然観・生活観に根ざした新しい日本史を構築
・1850円

江戸時代を読む④—農書の世界

農書の時代

古島敏雄編著 日本民衆の古典—農書の生まれた時代背景を多様な側面から探求した入門書。
・1260円

近世の日本農業

岡光夫・三好正喜編著 近世農業生産力の高まりとそれを支えた農民のエネルギー、日本の農法確立の様子をリアルに紹介。
・1890円

日本農法の天道

徳永光俊著 故き農書を温め直し循環型社会の原理を知る—農・食・医・育の「和学」—日本のいのちの創造から伝統と現代科学の統合を目指す。
・1850円

日本農法の水脈

徳永光俊著 賢治、農民芸術、柳宗悦、工芸文化—に相通じる江戸期農民の「農芸」の世界、日本人の自然観や地域社会の源流を農書にみる。日本農書全集収録文献検索リスト付。
・1840円

走り読み「江戸時代 人づくり風土記」 -暮らしを多面的に描き、江戸びとと出会う-



幕末の写真 東海道の横浜と藤沢の間の松並木

江戸時代の女性の意外な?
たくましさを発見
各巻の第4章子育てと家庭経営の知恵
に収められたエピソードより

全50巻に及ぶ「江戸時代 人づくり風土記」ですが、通史ではなく暮らしを描く本なので、どこから読み始めていただいてもいいのです。一つひとつのエピソードも、物語風に仕立てた読みやすいもの。気楽に「江戸時代散歩」の気分が味わえます。ふるさとの意外な一面を見つけたり、旅行先で目にする風景の由来がわかったり。そんな魅力の一端をご紹介します。

農家のお母さん5人づれたといわれる慶安の御触書が30泊31日の大観光旅行をという文書があつて、これした話(神奈川)
幕府が1649年に出しかに規制したものだ。その

一項に「大茶を飲み、物まに遊山好きする女房は、離別すべし」とある。ところが、神奈川県湘野辺の養蚕農家の主婦5人が、一カ月の長旅をした記録が残っている。寺社参詣を名目にした大観光旅行で、天保14(1843)年の春のことだ。在所の湘野辺を北上してまず秩父巡礼をはじめ、34番所を巡りつくして、こんどはなんと長野の善光寺に詣で、帰途にはまた足るのぼして日光の東照宮に至る。

この話を紹介した相模原市立図書館の長田かな子さんは「その体力、精神力のたくましさもさることながら、農閑期とはいえ、かくも長き不在と、かなりの出費を許される彼女たちの、家庭内での重い存在をうかがい知ることができます」と結んでいます。

三行半は女房から上州名物嬢天下の話(群馬)
辞書によれば、三行半とは「夫から妻に出す離縁状」とさされている。しかし、上州では妻から離婚請求する「飛び出し

離婚」が多かった。その場合、妻は夫に対して趣意金(慰謝料)を払うか、持参金を放棄するいずれかの必要があったが、上州の女性には自分の労働で得た収入でそれを支払って離縁している。

女性が主役だった養蚕と糸挽き・機織りは、男衆をはるかに凌ぐ収入を実現した。上州の女性たちは養蚕だけでなく、馬方や炭の販売、山からとってきたワラビなどの販売も精力的に行ない、経済的自立を獲得した。明治に入っても、「一家の主権全然嬢天下に帰す」とされたほどであった。

この話を紹介した高崎市史編纂専門委員の中島明さんは「農村では女性の稼ぎが大きな役割を果たしていました。嬢天下」は上州という地域に限定されたものではないのか」として、「野州名物空つ風に嬢天下(栃木)」「諏訪の名物空つ風に嬢天下(長野)」「能州の嬢天下(石川)」「会津の嬢天下(福島)」などの事例があることを指摘しています。江戸時代を生きた女性たちのバイタリティを感じさせるエピソードが各地で発見できます。

農文協

映像記録

第1集 日本の味のルーツを探る

①トチの実を食べる②遙かなるコンブロード③うま味のふるさと「魚醬」④京湯波を造る⑤江戸の味「佃煮」

第2集 伝統食品の知恵と工夫を探る

①豆腐見聞録②こんにやく③昆布繁盛記④信州の寒天⑤九十九里の煮干し

第3集 風土の味と技を探る

①木曾の「すんき漬」②南蛮渡来のたくあん「山川漬」③佐久の「凍豆腐」④野州の「干瓢」⑤和州吉野葛

第4集 大豆と小麦食品のルーツと技を探る

①納豆のふるさと②豆腐③出羽の六淨豆腐④種のふるさと⑤京生麸



企画・味の素食の文化センター 老舗の秘伝、郷土食の知恵...日本の風土の中で先人が育んだ伝統食品の歴史と特徴、失われゆく製造・加工・調理の技をビデオに収めた貴重な記録。

日本の味
伝統食品
全4集・全20巻
各巻14700円

天災からの復興の努力が 名産品を生んだ

各巻の第1章自治と助け合いの中で
に収められたエピソードより

因縁? がわかる話ほか
天災からの復興を目指した
人々の努力の成果だった。

(群馬 神奈川、長崎)

天明の浅間山大噴火は、上州一帯に壊滅的な打撃を与えた。現在の観光名所、鬼押し出しは、鎌原村93戸すべてを埋没させ、村民597人のうち93人しか助からなかった火砕流の名残。この被害に、幕府の命により遠く熊本藩から400人が派遣され救援にあたった。また、渋川村の吉田芝溪は荒れた畑の再開墾体験から、開墾須知を著したが、ここで奨励されているのが桑の植え付けだった。上州の畑天下を支えた養蚕業は、

復興がはかられ、名産桑野たばこが生まれました。雲仙岳の大爆発と地震に被害を受けた島原藩(長崎)では、櫛の植付と製蛭(ろうづくり)が奨励され、重要産業になりました。



蚕あがりの図

陶磁器に見る江戸の地域 ブランドづくりのドラマ

各巻の第2章生業の振興と継承の中で
に収められたエピソードより

国際的動乱の中で有田焼(1592~98)によつて世界的ブランドになった話(佐賀)

日本の陶磁器産業をひらいたのは、秀吉の朝鮮出兵

田の地は一大窯業センターとなる。1640年代後半には、中国が明から清へと変わる際の戦乱で中国の陶磁器輸出がストップし国際的に陶磁器の需要が逼迫した。そんな情勢に促されて、中国の技術者から赤絵の技術を学び、独特な柿右衛門様式が確立された。17、18世紀にかけて、ヨーロッパの貴族の館を肥前磁器が飾った。

低価格の日用品に集中し成功した「せともの」の話(愛知)
朝鮮人陶工による陶磁器産業の勃興は各地で見られた。萩焼(山口)、薩摩焼(鹿児島)などが、とくに高価な茶陶の産地として栄えた。

一方、後発地域でも知恵を絞った陶磁器産業振興がはかられた。瀬戸(愛知)では、佐賀のように良質な原料がない中で陶器(土もの)から磁器(石もの)へ転換するために、粘土と長石を調合して磁器原料とするなどの研究が積み重ねられた。瀬戸で「磁祖」と呼ばれる加藤民吉は、尾張藩のバックアップも得ながら先進地肥前に赴き、技術を習得して帰郷する。じつはこのころ、肥前では技術流出を警戒して「有田皿山の絵書細工人どもは他所へ行

つてはいけない」とお触れを出して、実際に処罰も行なわれていた。そうした状況下での肥前修行はかなりの紆余曲折をとまなうが、加藤民吉はその実直な人柄で肥前の人々の信頼を得て、4年に及ぶ修行を成功させた。

そして磁器生産を開始した瀬戸は、先発の肥前磁器の様式を取り入れながらもとくに日常食器である碗類にねらいを定めて量産し、低価格路線でシェアを拡大していく。いまや陶磁器の代名詞ともなっている「せともの」の基礎を築いた人々の苦闘と工夫がしのばれる話である。

足もとの資源と技術を生かして地域振興をはかる先人の努力は各県に伝えられています。関心のある分野で各県を読み比べてみるの

も、江戸時代散歩「の一つの方法です。藩ことに官民一体となつて工夫を重ねた事例も多く、土農工商・封建時代というイメージとはずいぶん趣の異なる「地域の暮らし」があったことがわかります。

「江戸時代 人づくり風土記」を水先案内人にしてふるさとの江戸時代をたくましく生きた人々の姿に出会うことができます。また、武士と庶民のあいだでも、藩と藩のあいだでも、閉鎖的というより開放的で交流が見ええます。特定のテーマで各県を読み比べてみたいときは、この全集の索引巻でもある「近世日本の地域づくり 200のテーマ」から見つけることができます。ぜひ、あなた流の江戸時代探索をお楽しみください。



瀬戸陶器職場の図(尾張名所図会)所収

日本の食生活 全集 全50巻

都道府県別編集

その地の自然と暮らしの積み重ねに育まれた食事のありよう。いま失われつつあるその本来の姿を、全国350箇所、50000人の古老からの地道な「聞き書き」と再現写真で記録した壮大な食の民俗誌。

- 日本の食の原形を記録：大正末期から昭和初期まで、戦争による混乱、戦後の洋風化を経る以前の食生活を記録。
- 最初で最後の記録：取材対象者が高齢なため、これが最後の時と思われる時期に調査完了。
- 四季折々、朝昼晩の献立、晴れ食、行事食、薬効のある食べ物、救荒食まで記録



【都道府県別編集】全50巻 = 各都道府県版 + アイヌの食事 + 索引巻2冊、A5判、上製、各2900円、揃価145000円

農文協

CD-ROM版

全集全50巻の全データを収録。オリジナルカラー写真。パソコンならは多彩な検索機能で、全国雑煮比べ、寿司比べなど迅速にできる。

120000円

ふるさとの人と知恵の物語

「江戸時代 人づくり風土記」各都道府県版 各巻の主な項目

「江戸時代 人づくり風土記」は各巻、五章だてで総計約五〇話で構成してあります。ここではその各巻の項目の一部をご紹介します(数字は本全集での巻数)。詳細は<http://www.ruralnet.or.jp/fdk/>でご覧になれます。



江戸の長屋のごみすて場

- 【1北海道】アイヌ民族・着物家おこし・結婚式・遊び・民話・熊送り・ユカラ・古式舞踊・民具・コシヤミン・シヤクシヤインの戦い・ロシアが千島へ南下・箱館奉行所の設置・箱館開港・箱館戦争・榎本武揚・屯田兵・黒田清隆・フロンティア精神にみちた人ひと他

【2青森】七里長浜・舳形度津・津軽塗・尾太鉦山・下北の寒立馬・悪戸焼・馬淵川・稽古館・安定寺・文武講習所・経学教授所・黒森学校・三戸郷学校・えんぶり・恐山・オシラ様信仰・岩木山信仰・ねぶた祭り・津軽ごころ・真法恵賢・野本道玄・飛騨屋久兵衛・安藤昌益・中村喜時他

【3岩手】南部信直と道慶と菅野李之助・建部清庵・新渡戸伝・砂金発掘・前川善兵衛・南部藩の絵巻・淵沢円右衛門・大島高任・古館家

【4宮城】石巻開港・伊豆野堰・四ツ谷用水・石巻と紙・三陸近海漁業・仙台紅花・農家手習状・仙台藩医学校・高野家日記・家内用心集・隠し念仏・七夕行事・金華山詣で・山神講・谷風楓の助・只野真葛・林子平・川村幸八・松窓二一・新井奥達・支倉常長他

【5秋田】佐竹義宣と梅津政景・栗田定之丞如茂・秋田杉・阿仁銅山・川連漆器・白岩瀬戸山・榊細工・秋田八丈・鳥海山と山伏修行・赤津寺子屋・長善館・日新堂・菅原源八・ナマハゲ・かまくら・竿灯祭り

【6山形】最上川・酒田堰・荻野善政・上杉銀山・紅花・青芋・庄内米・延沢銀山・鍛冶業・米沢織・三浦寛右衛門・荒井和水・鶴鳴舎・致道館・明新館・山寺立石寺・刺し子・黒川能・最上義光・鈴木清風・本間光正・田安明・最上徳内・小関三英・長沢理玄他

【7福島】保科正之と条・沢村勘兵衛・大内宿の盛衰・会津塗・三春駒・会津の酒造業・会津心学・日新館・立教館と郷学敷教舎・浅川の花火若者組・七日堂裸詣り・と十三詣り・六地蔵信仰・じゃんがら念仏踊り・檜枝岐村の歌舞伎・二本松少年隊・佐瀬与次右衛門・磯村吉徳・寺西封元他

【8茨城】那珂湊・下鹿島灘・霞ヶ浦の漁業・猿島茶・結城紬・陣中膏・ガマの油・常盤炭田・水戸納豆・くり・筑波山信仰・彰考館・塚田家の遊雲堂・青藍舎と鹿島神社・弘道館・大塚摩屋・鳥街宮の祭頭祭・伊奈半十郎忠治・徳川光圀・永田茂衛門・木村謙次・小宮山楓軒・藤田幽谷・間宮林蔵他

【9栃木】五千石用水・舟運と筏流し・那須野ヶ原の開拓・日光神領・大谷の石山・日光下駄・日光彫・日光湯波・鳥山和紙・野州石灰・益子焼・足利学校・壬生藩校・諸葛琴台・水神様とカビタリ・梵天祭り・弥生祭り・強飯式・常盤澤北の家庭教育論・

【10群馬】明の浅間山・大噴火・絹織の町・生糸・上州生糸・上野紙・板倉勝明・伊勢崎藩の郷学・吉田又次と大石久敬・上毛三山の信仰・農民剣法・関東取締出役・上州名物燗天下・高崎町人の歳時記・羽鳥一紅・永井長治郎・金井鳥洲・高山彦九郎・吉村屋幸兵衛佐羽淡齋他

【11埼玉】葛西用水と・野火止用水と三富新田・秩父絹と岩槻木綿・狭山茶づくりに・桶川藤脂と武州藍・川口の鑄物と朝霞の伸銅・共同体を育む秩父・榎本弥左衛門・奥貫友山・児玉南柯・寺門静・大友有隣の恭養所・小谷三志・福島貞雄と渋沢宗助・寒松・塙保一・鈴木荘丹・渋沢栄一他

【12千葉】精海の手拓事業・印旗沼の開発・行徳塩田・嶺岡牧場・銚子・野田の醬油・山武林業・飯高檀林・根取魚・東条一蘭・新井文山・成徳書院・蘭医学の順天堂・伊能頼則・水塚・成田不動・大高善兵衛と平山仁兵衛・醍醐新兵衛・菱川師宣・白井鳥醉・稲葉繁斎・伊能忠敬・武田石翁・大原幽学他

【13東京】葛西用水と・見・黒谷和紙・京都の私塾・三井高房・雲水修行・石田梅岩・落柿舎・老舗の家訓・角倉了以・本阿弥光悦・松永貞徳・吉田光由・伊藤仁齋・尾形光琳・乾山兄弟・絹屋佐平次・山脇東洋・与謝蕪村他

【14神奈川】小泉次大夫・砂村新左衛門・小高市右衛門・鎌倉彫・箱根細工・箱根七湯・浦賀干鰯問屋・遊行寺の信仰集団・江ノ島詣と大山詣・江ノ島大師・鎌倉五山・ヘボン塾・東慶寺・関口藤右衛門・金子サクと・童子驍方・田中丘隅・吉田勘兵衛・二宮尊徳・高島嘉右衛門他

【15新潟】間の宿場と和新潟騒動・紫雲寺湯の干拓・佐渡の金銀山・越後縮・燕の鍛冶業・三面川の鮭・毒消し丸・佐渡能楽の根付き・高野余慶・良寛・新発田藩校と社講制度・三余堂と長善館・越後の賢女・幕府諸藩の教学政策・北越雪譜・ノボツカたち・真柄仁兵衛・松田伝十郎・伊藤五郎左衛門他

【16富山】牛が首用水・富山藩の田地割制度・今石動宿・越中七かね山・越中ブリと飛騨街道・鉄鋳物業・売薬業・和紙産業・城端塗・広徳館・高岡の私塾・瀬浦教育と広沢塾・立山信仰・ポンボコ祭り・高岡の御車山祭・宮永正運・五十嵐篤好・伊東彦四郎・石黒信由・沢田清兵衛・西村太沖・播隆上人・椎名道三他

【17石川】加賀藩の改作法・十村制度・辰巳用水・輪島塗・九谷焼・加賀友禅・能登内浦の鯨漁・大聖寺絹・能登上布・前田綱紀・集義堂と集学所・私塾遊遊館・武学校壮遊館と語学道済館・アエノコト神事・曳山歌舞伎・ほうらい祭・鳥帽子親・五十嵐道南・任誓・土屋又三郎・加賀の千代女・中村歌右衛門他

【18福井】熊川宿・今切・甲府勤番支配・甲州街道と脇往還・郡内織・甲州木綿・甲州葡萄・由学館・興譲館・松声堂・環松亭・富士信仰・身延詣・甲州の温泉と湯治・大久保長安・柳沢吉保・吉木食僧行道と白道他

【19山梨】甲州金・甲切・甲府勤番支配・甲州街道と脇往還・郡内織・甲州木綿・甲州葡萄・由学館・興譲館・松声堂・環松亭・富士信仰・身延詣・甲州の温泉と湯治・大久保長安・柳沢吉保・吉木食僧行道と白道他

【20長野】飯綱の大座・天明の飢饉・戸倉宿・手すきと和紙の里・上田細・権兵衛街道・高遠焼・佐久鯉・伊那谷の地形芝居・中村智輔と植松自謙・進徳館・内山真弓・依田憇蔵・入野谷の孝行猿・小林一茶・市川五郎兵衛・恩田木工・佐久間象山・小木曾猪兵衛・島崎正樹他

【21岐阜】地方方法・宝暦の治水工事・美濃焼・関の鍛冶業・美濃紙・飛騨匠と

【22静岡】伊豆の金山・宝永の富士噴火・掛川の報徳運動・駿府の木工・漆工・熱海の献上湯・駿河茶・田子の鯉漁・伊豆の若者組・湯山文右衛門・福王寺・久延寺の子育て観音と夜泣石・遠州大念仏・富士講・風捲け含乾・三島庵・友野与右衛門・白隠・賀茂真淵・菊池袖子・島津恂堂・江川英龍他

【23愛知】入鹿池・三河の干拓・三河と尾張の木綿・鳴海の絞り染め・三河の八丁味噌・半田の酢・常滑焼・瀬戸焼・雲母・黒鉄と農鍛冶・時習館・百姓伝記・羽田文庫・三河万歳・天王祭り・御旗祭り・ええじやないか・横井也と加藤晴台・渡辺山・菅江真澄・渡辺政香他

【24三重】伊勢神宮の式年遷宮・空穴のある横井戸・マンボウ・熊野灘の鯨漁・志摩の漁業・丹生水銀と射和粉・伊賀焼と万古焼・松阪木綿・伊勢型紙・豊宮崎文庫と林崎文庫・寺子屋・寿観堂・福沢舎と有誠舎・国府の隠居制度・波切の大わらじ祭り・長島輪中の水屋・角屋七郎兵衛・河村瑞賢・西島八兵衛・野呂元丈・森万右衛門・大黒屋光太夫・平松栄斎・松浦武四郎他

【25滋賀】寛文の震災と浜りりめん・近江蚊帳・鍔物師・近江売薬と伊吹もくさ・安曇川・扇骨と硯石・フナズン・用水排水のしきたり・時習館・大津絵・左義長祭り・富田人形浄瑠璃・小林吟右衛門・小堀遠州・浅見綱齋・中江藤樹と熊沢蕃山・伴蒿蹊・雨森芳洲・甲良豊後守宗廣・木内石亭他

【26京都】祇園祭・地蔵信仰・京の伝統工芸品・西陣織・伊根浦の漁業・京野菜・大原女と白川女・宇治茶・酒どころ伏

【27大阪】寛文の震災と浜りりめん・近江蚊帳・鍔物師・近江売薬と伊吹もくさ・安曇川・扇骨と硯石・フナズン・用水排水のしきたり・時習館・大津絵・左義長祭り・富田人形浄瑠璃・小林吟右衛門・小堀遠州・浅見綱齋・中江藤樹と熊沢蕃山・伴蒿蹊・雨森芳洲・甲良豊後守宗廣・木内石亭他

【28兵庫】神戸海軍操練所・綿作・伊丹の酒・丹波・灘の生一本・西摂水車と絞油業・伊勢の学問・優秀な和算の大家・應舉一門の絵画・有馬と城崎の湯・沢庵和尚・上島鬼貫・盤廷律師・廻船・問屋業北風家・高

【29奈良】興福寺・奈町・奈良晒・木綿織・菜種と種油と油粕・売薬業・吉野の林業・吉野紙と国産紙・金魚飼育・赤膚焼・興譲館と合三山・晩翠堂と和歌の隆盛・文武館・おん祭りとお水取りと鹿の角伐り・金春座・奈良良寛・近世仏教美術・柳沢光・浅田宗茂・中村三・森野藤助・森川杜園・中山みき他

【30和歌山】徳川頼宣・治宝・宝永・安政の大地・紀州みかん・紀州材と山林保護政策・綿作・鯨組の集団作業・黒江の漆器・粉河酢・藩校学習館・医学館・石田冷雲の就正塾・熊野三山・淡嶋神社・須佐神社のオトウツリ・栖原角兵衛・紀伊国屋文左衛門・華岡青洲・浜口梧陵・畔田翠山・井沢弥惣兵衛と大畑才蔵他

【31鳥取】朱印船貿易・竹島渡海・米川開削・智頭の林業・たたら製鉄・大山詣り・牛馬市・鯛漁・干鰯・稲扱千刃・ハルマ和解・円通寺の人形芝居・流しびなどひな祭り・狐持ち迷信・佐野川の開削・池田冠山・六尾反射炉と武信潤太郎他

【32島根】紙と津和野・山雲州木綿・石州半紙と遠田表・木実方と人参方・和鉄の奥出雲・唐人窯と石見焼・修道館・長善館と小篠御野・杵築文学・石田春律の百姓稼穡元・金屋子神・石見神楽・大槻七兵衛・井上恵助・算盤職人・村上考吉と忌部正興他

【33岡山】高瀬舟・矢掛・下津・井湊と北前船・蘭草・備前焼・吹屋ベンガラ・北房町の鯉市・備中綿・矢吹学舎・池田光政と熊沢蕃山・関谷学校・

【34広島】朝鮮通信使と鞆の浦・塩田騒動・備後表・牡蠣養殖・安芸木綿・芸備の鉄山門徒・宮島細工・広島針・安芸門徒・香川南浜・頼家の学問・矢口来応・福山藩校誠之館・新庄南条踊り・世量神社の秋祭り・村上休・多賀庵風律・吉益東洞・星野良悦・頼山陽・野坂完山・富田久三郎他

【35山口】万治治法・撫育方・萩焼・請紙制と紙漉・雲谷派画人・有馬喜惣太・松下村塾・大島久賀村の梯子田・見島牛・オシクラゴウ・徳地人形浄瑠璃・毛利輝元・奈古屋村・毛利重就・山県周南・村本三五郎・白石正一郎・高杉晋作他

【36徳島】阿波五街道・木頭のかずら橋・阿波の水車・第拾壱・藍・久次米兵次郎家・撫養湊の繁栄・阿波志・阿波拾穂集・岡崎三蔵・お遍路さんと善根宿・伊賀城下の盆踊り・狸伝説・伊賀城下・丸山・徳弥・賀川玄悦・関寛齋・人形師天狗屋久吉他

【37香川】満濃池・讃岐の廻船・丸亀新堀と多度津津南・讃岐産白砂糖・坂出大浜の塩田開

【38愛媛】蘭持制・地の大飢饉・別子銅山・伊予紬・砥部焼・宇和海の干鰯・止善書院明倫堂・西条藩校扶桑堂と今治藩校克明館・中江藤樹と日本陽明学・霊峰石鎚山・本武蔵・西山宗因・鈴木重成・柿右衛門・富田才治・鍋島直正他

【39高知】野中兼山・元禄大定目・土佐和紙・捕鯨・林産物・鯉節・石灰製造・オナガドリ・谷桑山・江村老泉・教授館・致道館・野中兼山・どろんこ祭り・土佐の関犬・緒方宗哲・吉本虫夫・細木瑞枝・絵師金蔵・武市瑞山・中浜万次郎他

【40福岡】柳河藩の干村用水路・岩松助左衛門・八女茶・筑後手すきと和紙・上野焼と高取焼・眼療館・久留米餅・筆子塚・修猷館と甘棠館・大隈言道と野村望東尼・牧園茅山・庚申講・天神信仰・祇園山笠・博多にわか・神屋宗湛・宮崎安貞・貝原益軒・仙がい義梵・真木和泉他

【41佐賀】虹の松原の警備・反射炉・有田焼・唐津の焼き物・嬉野の蓋煎り茶・小川島捕鯨・鍋島藩染織工芸・弘道館・奥東江・多々聖廟・東明館・講・白鶴神社・彦山詣りと祐徳稲荷信仰・唐

【42長崎】キリシタン大名と少年使節・以阿庵・陶山吟庵と猪退治・波佐見焼と三川内焼・茂木ビワ・長崎鍛冶所・有家手延そうめん・育英館・五校館・鳴滝塾・長崎海軍伝習所・ジャガタラ文・対馬厳原地蔵盆・動作ばなし・隠元・松浦静山・本木昌造・大浦慶・上野彦馬・ウイリアムズ牧師他

【43熊本】轟泉水道・削と舟運・蘭草栽培・山鹿灯籠・球磨焼酎・来民つちわ・肥後象眼・小堀流踏水術・時習館・善滋園・医学寮南春館・習教館・林校園・木原不宮・藤崎八幡宮の例大祭・宮

【44大分】井路開削・船・財政再建策・日田金・豊後表・明善・砥産物・干鰯と塩づくり・成宜園・菊園・西えん精舎・知来館など・別府温泉・石造りアーチ橋・三浦梅園・賀来飛騨・帆足万里・広瀬久兵衛・村瀬庄兵衛・福沢諭吉他

【45宮崎】日向諸藩・藩士・鉄肥杉・日向の和紙・銅山業・広業館・藩校明倫堂・明道館・高妻騰雲・五雲の私塾・シヤンシヤン馬・薩摩藩都城国学・田の神石像・矢津田喜多治・松井五郎兵衛儀長・野中金右衛門・藤崎公寛・安井忠軒他

【46鹿児島】外城制度と郷士・門割制度・安永の桜島大噴火・さつま芋焼酎・国分煙草・樟脳・薩摩焼・種子島・トカラの島々・黒糖・大島綿・蘭牛・薩摩現流・薩南学派の継承者・演武館・天文館・集成館・事業・直川智・島津重豪・毛利正直・浜崎大平次・大久保利通・西郷隆盛他

【47沖縄】島に暮らす／島に働く／島の祈り／島のことば・琉歌・組踊／島のきずな／島の学芸・冊封使・琉球の王府の芸能・民間医療／沖縄の音楽CD・沖縄を聴こう(収録曲・歌詞)／島の恩人たち・羽地朝秀・儀間眞常・湾朝保・蔡温・玉城朝薫・宜平・一ビュイ他

江戸時代 人づくり風土記

こんな読み方、使い方をおすすめします。



台所美人(喜多川歌麿画)

テレビの大河ドラマや時代劇を見るのが大好きで、読んでみて、ドンドンのものしい出立ちや言葉使いが面白くて魅力的です。いつもなげなく見ていてもすつかりと「江戸時代」になったつもりでいます。

石川和子(北海道・主婦)

前に進む勇気を与えてくれる知恵いっぱいの本

本全集を全巻購入した新潟の建設会社の社長は、「近頃の若い者は、本を読まない、ふらふらしている。それは自分を知らないからだ。この『江戸時代 人づくり風土記』の、自分の出身や仕事で出かける県の巻を読むことで、その地域を知ることができる。おのずと自分が何たるかがわかるものだ。組の事務所に置いて、気が向いた時読めるようにしている。」という。ここでは、本全集をご購読頂いた方の声をご紹介します。

わたしと風土記

笠原 成介(奈良・教員)

いるだろうか。別の県の巻を開いてみると、行ったところや来たりが楽しくなる構成になっていきます。ルビが多く、人名や地名を間違えて記憶していたことに気がついたり、写真・図面・説明文が多くて改めて正しく教えられました。

江戸時代にはものの根本とか根柢のようなものがあのように思い(だから約感じさせてくれました。

(中略)

江戸時代の日々の暮らしが、目の前に大きく広がってきまします。短編小説を読むように、に気に入れた項目から読みかじり、ほかは少しずつ読んでいく。農業高校に勤務して5年になる。それまでは普通科高校であったので、「モノづくり」の現場で営まれている教育が非常に新鮮に感じられた。豚・鶏などの家畜の飼育、米やトマト・桃やシクラメンの栽培、庭木の剪定、味噌やジャムの製造、被服製作、調理…。農場で水遣りや堆肥作りに取り組む生徒たちを見ていると、こちらも元気をもらい、豚の出産に立ち会って母豚の腹を一心に撫でる姿には神々しさを感じさせられる。「いのち」と向き合うものだけが味わうことのできる感動が、そこにはある。

(中略) どうすればモノづくりの心や誇りを生徒たちと共感することができるか。

(とくに「出版ダイジェスト」1999年10月20日号より抜粋)

農文協

全20巻

第1期
料理別編第2期
テーマ別編

- 全10巻完結
- ①すし・なれずし
②混ぜごはん・かめし
③雑炊・おこわ・変わりごはん
④そば・うどん
⑤もち・雑煮
⑥だんご・ちまき
⑦まんじゅう・おき・おはき
⑧漬けもの
⑨あえもの
⑩鍋もの・汁もの
- ⑪春のおかず
⑫夏のおかず
⑬乾物のおかず
⑭続刊11月完結
⑮秋のおかず
⑯冬のおかず
⑰手づくり味噌・豆腐・納豆
⑱日本の朝ごはん
⑳日本のお弁当
㉑日本の正月料理



【解説・奥村彪生】各巻ごと、それぞれの料理について、起源、歴史、地域性など全国的な視点から日本の食文化に位置づける。

聞き書

ふるさとの 家庭料理

その地ならではの一品・品をカラー写真で紹介。調理の工夫、料理を生み出す暮らしの「物語」まで、全国5000人の古きから新しきまで、平均250頁、各2500円

●A5判・上製、平均250頁、各2500円

ご注文は

農文協 〒107-8668 東京都港区赤坂7-6-1

☎03(3585)1141

FAX03(3589)1387

URL: <http://www.ruralnet.or.jp/>

価格は税込

地域と歴史と農業を結ぶ総合的学習

(「江戸時代 人づくり風土記」を使って)

吉村 文男 京都教育大学教授

江戸時代の「子育て」

から現代を見直す

(前略)例えば「教育哲学演習」という授業では、日本が近代化をすすめる中で、それに伴うさまざまな層によって、いわば利用された教育を、そこから解放して前近代社会における「子育て」に還して捉え直してゆこうとする太田堯氏の書かれたものをテキストにして、講読したりした。そしてその続きをと考えていた際にふと思いついたのが、広告を見ておもしろいようなので買ってみた。農文協発行の「江戸時代 人づくり風土記」のシリーズを利用することになった。それをテキストにすることによって、太田堯氏の説かれると



10代、20代の「若連中」が担った祭りは、大人への通過儀礼で社会教育の場になった(鳥取城山神社)

の跡を実際に見ることがほとんど不可能である。それだから自分の出身府県を取り上げた学生にとっても、「人づくり風土記」に出てくる事柄はまったくはじめて出会うことばかりであった。だが、それだけに彼らにとって、その授業は「おもしろかった」というのが共通した感想であった。毎年違ったことをやる

いのちの循環を辿る

総合的学習へ向けて

なぜそのように考えるのかというポイントは「江戸時代」にある。江戸時代は「循環型の社会」であったと言われる。それに対して、高度に工業化された資本主義社会である現代の日本は、大量に生産されたものを大量に消費し大量に廃棄する社会である。大量に生産されたものを大量に消費して、「その後は知らない」という無責任な社会である。その結果、大量の廃棄物、つまりゴミの行き場がなくなりつつあるだけでなく、それが自然環境を汚染し破壊してゆく。この現代

というのを原則にしている。その後、「教育哲学演習」で「人づくり風土記」を使用したことはないが、近い将来に再び使ってみようと思っている。その際には、「おもしろかった」というより以上に進みたい。「人づくり風土記」が取り上げる江戸時代を現代と結んで、行き詰まった現在の学校教育に風穴をあけるものと期待されている。「総合的学習」のプランを参加学生がつくるということまで進められればと考えている。

しかし現代の、工業と化した農業は、そこから得られる「豊かな食」によって、ときには「いのち」を傷つけることもある。それに対して、江戸時代の農業は、自然の大きな循環の輪を人間の所で断ち切ってしまうことなく営まれていたとすれば、それを現在に結びつけることには意味があるだろう。しかも、工業化した農業では農業生産物も農業技術も世界のどこにでも移されるが、江戸時代の農業はそれぞれの土地の風土に合った産物と技術が工夫され、各地域に独自の農産物や農業技術が発展した。それらを今探し直すことは難しいが、少しずつ変化しながら江戸時代から伝承されてきた農業は、経済の高度成長期の直前までは存在したであろうから、今もその痕跡を見付けることは不可能でないだろう。それを尋ね、それを学ぶ。しかも単に「座学」によってではなく、実際に作業を伴いながらという「総合的学習」のプランを学生諸君とともに作ることでできれどと思っている。(後略)

(※注：平成12年度実施された。)

「出版ダイジェスト」1999年10月20日号より抜粋)

ビジュアル・スタディ

百の知恵双書

ボジティブに好奇心をもって21世紀を生きるための知恵と勇気を紡ぎ出す。足もとからの暮らしと環境の科学

001 棚田の謎

田村善次郎・T・E・M研究所著
民俗学と、工学的数量化、徹底したビジュアル化の融合で、中世以降の農民の英知、人の手の入った自然の温かさを描き出す。●2800円



002 住宅は骨と皮と マシンからできている

野沢正光著 住み心地や環境、資源にも配慮し、地域自然や町の記憶をつなぐ家とは、建築家が設計実例から語る住宅入門。●2800円

003 目からウロコの 日常物観察

野外活動研究会著 店の看板、粗大ゴミ、おばさんファッション、奇妙なモノに刻印された暮らしの諸相。リサイクルの建前論を凌ぐ観察記。●2800円

農文協

【続刊予定】絵本の丘日記 いわむらかずお著/台所の一万年 食べる暮らしの知恵 山口昌伴著/大きなデザイン 自然のかたちの不思議 奥村昭雄著ほか

農書は現代へのメッセージ

「日本農書全集」が伝える江戸期の生活世界

生まれ育った「地域」で
生き抜いていく「気概」

「農書」とはふつう田畑

耕作のやり方を書き記して
次の世代に伝えようとした
文書群とされている。しか
し、多くの農書は、単にそ
のやり方だけを記した
ものではない。生産の技
農法の記述にほかならず地
域の風土や人情が語り込め
られている。本全集第一巻
所収の『耕作術』は津軽の
稲作について書かれた文書
ではあるが、その書き出し
はこうなっている。

「日本国中を回って花の
京都、花の江戸、大阪、
名古屋を見て、生まれ故
郷の津軽よりよいところは
ない。また津軽を回って見
ても、御城下弘前や鰺ヶ沢
港の賑わいを見て、自分
の生れ在る所がいちばんよ
い。」

「我等が在所も人の見ば
かくやあらんと産宮の、講
を催し御酒捧げ、所繁昌安
全の、願いのほかは他念な
らなく、講会ことに田や畑の、
耕作術のほかに、思い
を話すなり。」

農書とは、こうした土に
根を張った人生観によつて
書かれ、その全体が現代に
メッセージを送ってくるも
のである。地域の個性
は、地域の自然とそこに住
む人とのつきあいの中で育
つ。その生まれ育つていく
港の賑わいを見て、自分
の生れ在る所がいちばんよ
い。農書である。

綿密な現代語訳

「日本農書全集」は原文
だけでなく現代語訳が対照
できようになっている。
現代へのメッセージとい
う以上、研究者だけでなく
現代のふつうの人々が読め
なくては刊行の意味がな
い。だがこれはまことに困
難な仕事だった。農書の多
くは地域に密着して書かれ
たものであるから、それぞ
れの地方のことはで記され
ており、その意味を特定す
ることが大仕事なのであっ
た。たとえば「除草」とい

江戸びとの暮らしの

一級の資料

さて、本全集に収録され
た農書は次頁のような二五
のジャンルに大別される。
全七二巻のほぼ半分を占
めるのが、地域農書で、北
海道南部から沖縄石垣島ま
で、その地域の農事体験生
活(と生産)を記した文書で
ある。

特産物や加工の手法を記
したものも多い。江戸時代
は全国どこでも栽培されて
いたのほいね以外には少な
く、農産物はつまり特産物
であった。そしてその種類
も多い。別掲の「江戸時代
人づくり風土記」で扱

うことは江戸時代にはな
かった。「芸(くさ)」「かじ
め」「芸(くさぎさる)」「草
修理」「草そり」などとい
われていた。そして、それ
ぞれの言葉の意味には、微
妙な差があったにちがいない。
現代語訳を担当された
専門家の先生方は、たいへ
んな苦労をされた。その農
書が成立した地域の古老を
訪ねての確認作業、状況証
拠の探索などが再三くりか
えされた。

説
中国
文化

百華
第1期
全20巻

現代文明の行き詰まりを乗り越え、自然と人間が
調和する21世紀を切り拓く鍵は、アジアの生活文
化と思想のなかにある。日中文化往來の軌跡を軸
に、その諸相を写真・図版豊富に描く。

天翔るシンボルたち
幻想動物の文化誌

張 競著 多種多様な一角
獸、聖鳥、龍：圧倒的な図
象の奔流、異形異能の幻想
動物に託した古代人の文化
的メッセージを読み解く。
・3200円

おん目の雲ぬくばや
鑑真和上 新伝

王 勇著 高僧鑑真を命が
けの渡りに駆り立てたもの
とは？ その内面世界と当
時の中国仏教界の実相に光
を当て、知られる情熱を描
き出す。
・3200円

しじまに生きる野生動物たち
東アジアの自然の中で

今泉忠明著 野生を捨てて
人間と生きるか、絶滅の道
をたどるか。凍土から砂漠、
熱帯林まで多様な地理条件
に棲む60種の生態と運命。
・3200円

農文協

「続刊予定」イネの日中交流 佐藤洋一
郎著ノ真髓は調和にありノ吳清源君の宇
宙 水口藤雄ノ神と人との交響楽ノ中国
飯面の世界 稲畑耕一郎ほか

ご注文は

農文協〒107-8668 東京都港区赤坂7-6-1

TEL 3585 1141

FAX 3589 1387

URL: <http://www.ruralnet.or.jp/>

価格は税込

農書を現代に活かす15の視点

「日本農書全集」全72巻の分類テーマとその概略

【地域農書】

第1～11、15～41巻

村にあつて自らの農事体験をもとにして書き残されたもので、その地で栽培・飼育された作物全般にわたる、生活と生産が合体した形で記述されたものである。総合農書とも称してよく、地域固有の農法の記述であると同時に、近世庶民の暮らしについての一次資料として貴重である。



「田家すきはひ袋 耕作稼穡八景」(第37巻)

【特産】

第45～49巻、他

各地の商品化された特産物を扱う。(数字は収録巻数)

あい(30・45)、油桐(47)、なたね(1・45)、楮(47)



「清物塩嘉言」(第52巻)

燐(13・31・33)、漆(46)、紅花(45)、さとうきび(14・34・44・69)、茶(47)、さつまいも(70)、しいたけ(45)、じゃがいも(70)、そば(70)、たばこ(45)、朝鮮人参(45)、梨(46)、みかん(46)、海苔(45)、養蚕・絹(35・47)、綿(15)、葉草(68)

【園芸】

第54・55巻

江戸の庭師の残した農書群を収録し、他方で熊本武士道とつながる養菊書も収める。



「剪花翁伝」(第55巻)

【林業】

第56・57巻

森林資源を利用しつつ保全した近世林業の体系を伝える書を収録。盛岡藩、黒羽藩、秋藩の林業技術書や、土砂流失防止と林業生産の直結を説いた琉球の「林政八書」を収める。

【漁業】

第58・59巻

近世の漁業は、いまいう日本型食生活の原型をつくり出したこと、農業生産に多くの資材を提供したこと

と、そして地域それぞれの特異な漁法開発の三点を特徴とする。この視点からの基本文献とともに、江戸湾での釣り、金魚飼育法などの書をも収めた。また第58巻の「小川嶋鯨鯨合戦」は佐賀県呼子の捕鯨の技術と船団組織を扱った絵入りの珍本。

【畜産・獣医】

第60巻

獣医書として、解体新書ならぬ「解馬新書」があつた。他に、家畜への鍼灸術の手引き、飼育と畜舎を論じたものなど多彩である。ペット飼育としての犬、鶏などの飼育手引きも収録。

【農法普及】

第20・61・62巻

先進的な農法がどのようなにして多くの農民に伝えられ、階層差・地域差を解消し、生産力の平準化が果たするか。農法移転の方法を探る。

【農村振興】

第63巻

二宮金次郎、大原幽学、石川理紀之助の文書とともに、下総・南生実村や信濃・芦田村に残るムラ自身のとりきめ文書「議定書」の類を収録。

【開発と保全】

第3・64・65巻

一六六六年の幕府による「山川掟」の発布を境に開発から保全への大転換が行われる。その間の多くの開発記録や、保全技術における甲州流・紀州流・関東流・美濃流、日本海岸の砂防技術、対馬の焼畑(木庭作)論などの基本文書を集大成した。また第3巻の「開荒須知(群馬)」は非農民の開発記録として貴重。

【災害と復興】

第23・66・67巻

富士山・浅間山・雲仙普賢岳の噴火、善光寺平・伊賀の地震、江戸湾・伊勢湾の津波、荒川・高梁川の洪水などの現場の、すぐれて人間模様の記録、東西の飢饉の状況を伝える二つの文書を収録。

【本草・救荒】

第18・68巻

陸中、建部清庵の「民間備荒録」(第18巻)「備荒草木図」(第68巻)をはじめ、



「備荒草木図」(第68巻)

飢饉に備える実用書を集めた。薬種の国産化を勧める「薬草木作植書付」(第68巻)も収録。

【農事日誌】

第11・42・44巻

農事日誌は近世各村の暮らしを具体的に知るまたとない素材である。田畑と家畜や養蚕、耕地と用水や採草地との結びつき、販売と資材の購入、季節の移り変わりや年中行事・信仰・遊び、ムラの共同作業など興味はつきない。肝煎の手になる羽後、畑作地帯の武蔵と下野、米単作の越中、加賀、村医者の書いた三河、寺子屋師匠を兼ねた美濃、稲と綿の河内、綿中心の備後、砂糖を作った讃岐、自給的主穀生産の薩摩の日誌に第11巻の「野口家日記」を加え13編を収録。

【絵農書】

第26・71・72巻

絵巻、襖、欄間絵、屏風、掛物、奉納絵、絵暦、絵馬、

「日本農書全集」全72巻・別巻1

A5判(第26・71・72巻・別巻のみB5判)、上製・箱入・各4200～7500円、別巻「収録農書一覧/分類索引」25000円【編集委員】第1期・山田龍雄、飯沼二郎、守田志郎、岡光夫、第2期・佐藤常雄、徳永光俊、江藤彰彦

「九谷色絵農耕煎茶碗」(第72巻)



自然—人間—社会が一体となった健康観

安藤昌益と日本漢方の古典

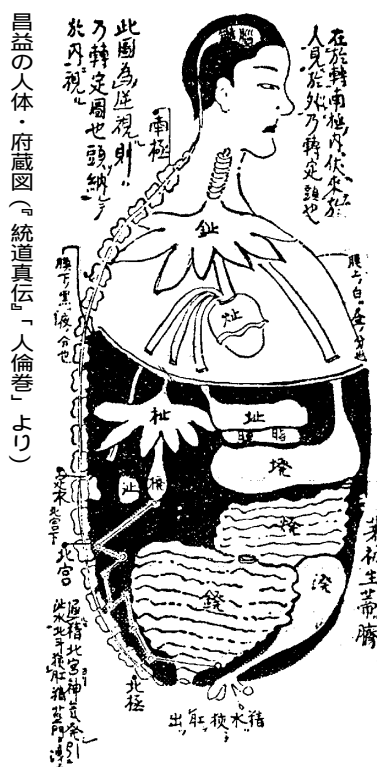
生誕三百年 甦る先駆的思想

江戸開府から百年、一七〇とに生きる農民こそ、〇三年に生まれた安藤昌益。あるべき人間の姿とした。今年が生誕三百年にあふ昌益は「不耕ニシテ民力ヲたふ。昌益が生まれた元禄。食フ」支配者や、それに連なる人々を弾劾する著作を農業生産が三倍近くに急増した高度成長が限界に達し、安定成長時代へと変わる転換期であった。

「農業ノ道ハ、万国・人倫、自然具足ノ妙道ニシテ、天下ノ太本」といふ、自然

注目される昌益の医学

「世界ハ一食道ノミ」といふ、医者としての昌益に断じた昌益思想の根底には、あまり関心がもたれて医学がある。「男女ニシテ一人」万人ニシテ一人とする男女平等、万人平等「安肝湯」や、荻野式避妊思想の根底にあるのも医学法にさきがけた主張などである。これまでラジカルな社会思想ばかりが目がいものであった。



昌益の人体・府蔵図(『統道真伝』「人倫巻」より)

人間の病をなくすには社会の病をなくさねばならぬ。昌益が生んだ優れた医学といふ苦闘した昌益だが、未病ヲ治シ、天下ノ人ヲシテ病苦ヲ知ルコトヲ無力ラシ

未病とはなにか

昌益にかぎらず、漢方では「未病」を重視する。「黄帝内経」に「上工は未病を治し、已病を治さず」とあり、「未だ病ならざるを治す」未病は、漢方の究極の目標とされている。未病は人間の生命力の強化を主眼とする。外邪そのものを防ぐ「予防」とも異なり、あくまでも生命力の強化をめざす。したがって厳密には医療とか医学とかいうものを重視したゆえである。

日本化が進んだ江戸時代

さまざまな物産の国産化が図られた元禄以降、学問や荻生徂徠(おぎせいそらい)などに「古学」の提唱に象徴され、「日本ルネッサンス」(福本和夫)と呼ばれるこの時代、安藤昌益や三浦梅園などの多彩な思想家が活躍した。

旧来の伝統や権威を鵜呑みにするのではなく、実情に即し、自ら考え出した思想によつて学問体系を創造しようという考え、原点に帰り、そこから思索をはじめようという姿勢は、漢心(からこころ)(次頁へ)

安藤昌益の

自然哲学と医学

続・論考 安藤昌益(上)

寺尾五郎著 自然と人間の調和を根幹とする自然哲学、生命医学・エコロジイ医学を提唱する自然医道の全貌。・10194円

安藤昌益の

社会思想

続・論考 安藤昌益(下)

寺尾五郎著 従来の昌益研究における偏見と誤解を払拭し、昌益思想の真価を明らかにした渾身の総括。・10194円

論考 安藤昌益

寺尾五郎著 昌益を介して自然と社会と思想の現代的諸問題を論考し、従来の研究を総括する昌益論の決定版。・12233円

安藤昌益と

自然真営道

渡邊大壽著 治安維持法下に行なわれた先駆的研究。安藤昌益の人と思想の全貌を紹介した古典的名著の復刻。・3568円

農村の救世主

安藤昌益

渡邊大壽著 安藤昌益のユニークな人間像と破格の思想が、楽しみながら理解できる文学「安藤昌益の思想」。・3059円

江戸時代を読む⑤—安藤昌益の宇宙

農文協

を排し、日本の大和心(やまとこころ)への回帰を主張する「国学」や、作為を否定し自然に帰することを主

日本漢方の成立

こうした学問・思想の日



吉益東洞

本展覧は、医学においても顕著であり、とくに古方派と呼ばれる一派は、古学派の隆盛と軌を一にした一種の復古運動で、後漢の時代に成立したとされる『傷寒論』への回帰を主張し、一気留滞説(すべての病気は気の滞りによる原因とする)

安藤昌益全集

安藤昌益研究会編 全三十一巻三分冊・別巻一
A5判上製、貼箱入り 揃価一五五〇〇円

巻構成

- 現代語訳編
- ① 稿本自然真営道 大序巻・他(昌益思想の真髓、最高の到達点である大序と真道哲論) 四二〇〇円
 - ② 稿本自然真営道 私制字書巻(文字・学問の利己性・階級性を暴露した昌益独自の字書) 六二〇〇円
 - ③ 稿本自然真営道 私法儒書巻(儒家をはじめとする諸子百家の欺瞞性を徹底的に批判) 五〇〇〇円
 - ④ 稿本自然真営道 私法仏書巻(儒教、仏教思想を論じながら語る独自の比較文化論) 四七〇〇円
 - ⑤ 稿本自然真営道 私制韻鏡巻・他(昌益独自の言語論・音韻論と徹底的な神道批判) 四六〇〇円
 - ⑥ 稿本自然真営道 私法世物語巻・他(動物が人間を風刺した「法世物語」と望診論) 四七〇〇円
 - ⑦ 稿本自然真営道 人相視表知裏巻(精神分析と夢分析、精神病者への対話療法を解説) 四二〇〇円
 - ⑧ 統道真伝 糺聖失(孔孟老莊などの中国思想家を不耕貪食の徒と完膚無きまでに批判) 四三〇〇円
 - ⑨ 統道真伝 糺仏失(仏教を各宗派別に批判し、神道

いう説)を唱えた後藤良山(ことごとんざん)を始祖として起こった、わが国独自の医学派である。

空理空論を排し、親試実験(自ら実験してその真偽を確かめるといふ科学的な姿勢)を貫き、峻削と呼ばれる劇薬をもちいて、邪毒を体外に排泄する汗・吐・下法という攻撃的な療法を

未病医学の原典

高齢化社会の今日、健康的関心事である。「天人一和」の昌益思想を網羅した

「安藤昌益全集」と、食こそ生命の原点という観点でまとめられた『医心方食養篇』、親試実験を貫いた古方派の巨頭・吉益東洞、中西医学の先駆的結合をめざし、「未病」の真髓に到達した永富獨嘯庵の名著をまとめた『叢書 日本漢方の古典』は、こうした時代の要求に応える得難い古典の宝庫であるといえよう。

いずれも書き下し・現代語訳・注解を付した決定版である。

- ⑩ 統道真伝 人倫巻(自然と人間の調和をめざした昌益のユニークな人体論と医学論) 四二〇〇円
- ⑪ 統道真伝 禽獸巻(全自然を有機的関連で捉え、動物を詳細に分析した博物学) 四五〇〇円
- ⑫ 統道真伝 万国巻(世界各国・各民族の自然・習俗・民族的記述を集成した万国論) 五〇〇〇円
- ⑬ 刊本自然真営道(昌益の著作のうち、唯一公刊された体系的な自然哲学書) 五〇〇〇円
- ⑭ 二井田資料・医学関係資料(昌益の晩年を記録した二井田資料と医学の後継者真齋の医書) 五〇〇〇円
- ⑮ 医学関係資料二 真齋護筆(卓抜無比な昌益医学の全貌を再現した医書) 五三〇〇円
- ⑯ 上八戸関係資料一(八戸に残された稿本自然真営道に残された稿本自然真営道三点) 四七〇〇円
- ⑰ 下八戸関係資料二・他初期刊昌益のノートや藩史料、書簡、草稿など) 五〇〇〇円
- ⑱ 復刻編(影印版) 大序巻・他 六二〇〇円
- ⑲ 稿本自然真営道 私法儒書巻・他 六二〇〇円
- ⑳ 稿本自然真営道 人相視表知裏巻・他 六二〇〇円
- ㉑ 統道真伝 糺聖失・糺仏失・他 六二〇〇円
- ㉒ 統道真伝・刊本自然真営道 別巻 六二〇〇円
- ⑳ 稿本自然真営道 私法儒書巻・他 六二〇〇円
- ㉑ 稿本自然真営道 人相視表知裏巻・他 六二〇〇円
- ㉒ 統道真伝 糺聖失・糺仏失・他 六二〇〇円
- ㉓ 統道真伝・刊本自然真営道 別巻 六二〇〇円

叢書 日本漢方の古典

- 栗島行春(中日友好医院名誉教授)編訳
- ・B5判上製・貼箱入り・布クロス装
 - 第一巻『醫心方 食養篇』 一六八〇〇円
 - 第二巻『建殊録』 東洞医口絵一四頁、本文五六八頁 一八九〇〇円
 - 第三巻『医聖永富獨嘯庵』 口絵一四頁、本文五六八頁 一八九〇〇円

安藤昌益

研究国際化時代の新検証

安永寿延著 全自然の望みを正しく認知してその本質に迫る行為が「直耕」——新視点から昌益思想を検証

・6116円

増補・写真集

人間安藤昌益

安永寿延著 写真と解説で、昌益思想の全体、現代社会での昌益思想の意味にスポットをあてる。

・2039円

安藤昌益

日本・中国共同研究

農文協編 自然と人間の関係回復を主張する昌益思想の現代的意義を総合的に検討した日中シンボルの全記録

・6116円

江戸時代を読む⑤—安藤昌益の宇宙

安藤昌益の「自然正世」論

東條栄喜著 自然と調和した再生循環性社会、地域の自律に基づく平等社会、自覚的勤労大衆の新生活構想

・4893円

猪・鉄砲・

安藤昌益

いいたも著 商品経済の発展が米社会をゆるがし、近代化を準備。その担い手の江戸期農山漁村民の姿を描く。

・1937円

ご注文はFAX 03(3589)1387が注文書を切りとり郵送して下さい



江戸開府四百年記念セール

江戸時代 人づくり風土記

各都道府県別編集
全50巻48冊

【各道府県版】●岩手・神奈川・長野・京都・福岡3500円～他4500円
 【特別編集版】[13・48合本・東京]大江戸万華鏡(「四季の音巡り」CD付き)●10000円[27・49合本・大阪]大阪の歴史力(カラー「浪花十二月画譜」付き)●10000円[48]沖縄(「沖縄を聴こう」CD付き)●7000円
 【索引巻】[50]近世日本の地域づくり 200のテーマ●5000円

■お求め方法 全巻、地域別ブロックセット(各地域の巻+索引巻「近世日本の地域づくり200のテーマ」)、好きな都道府県版など、ご自由にお選びできます。

* 家族のルーツをたずねて...自身や両親の出身県など、それぞれの風土や人物の姿を知ること、家族の結びつきも深まる。

* 視察や修学旅行など旅をより豊かに...旅先の今に受け継がれる江戸時代の暮らしや産業を知っておくと、旅がより意義深いものに。

* 地域づくりのヒントに...水との闘い、農林漁業の振興、名物・特産開発など、地域づくり、特産づくりに大いに役立つ史実が満載。

* テーマ別調べ学習のガイド=索引巻

「近世日本の地域づくり200のテーマ」

...関心テーマに沿って、全巻の関連頁へ案内。

全巻セット 全48冊 ☐ セット

●225000円

中国 全6巻 ☐ セット

岡山・広島・鳥取・島根・
山口+総索引

●27500円

九州 全9巻 ☐ セット

福岡・長崎・佐賀・熊本・
大分・宮崎・鹿児島・沖縄
+総索引

●42500円

中部 全10巻 ☐ セット

新潟・富山・石川・福井・長野・
山梨・静岡・岐阜・愛知+総索引

●44500円

四国 全5巻 ☐ セット

愛媛・高知・徳島・香川
+総索引

●23000円

北海道

全2巻 ☐ セット

北海道+総索引

●9500円

東北 全7巻 ☐ セット

青森・岩手・秋田・宮城・山形・
福島+総索引

●31000円

関東 全8巻 ☐ セット

茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川+総索引

●41000円

近畿

全8巻 ☐ セット

京都・大阪・兵庫・滋賀・奈良・三重・和歌山+総索引

●41000円

■分冊

ご希望の巻〔

ご住所 (〒) 電話

ご氏名

ご職業

Eメール

お客様番号〔

〕

農文協

〒107-8668 東京都港区赤坂7-6-1
TEL 03-3585-1142 FAX 03-3585-3668

江戸開府四百年
記念ブックフェア
全国有名書店で開催中



■農業書センター(東京大手町)で常設展示販売中
(本紙表示価格は税込)

取扱い